

(評価資料6)

研究課題	6 イヌワシ個体群の生態的特性及び遺伝的構造に関する研究(23-27)
研究目的・背景	<p>本研究では、イヌワシの個体群の将来的な存続に寄与するために、その特性の把握を主目的とし、個体の移動追跡調査や、羽根、卵殻、ペレット等のサンプルによる遺伝子解析を通して、移動分散や遺伝的多様性に関する知見を収集する。また、森林の横方向(等高線方向)列状間伐施業地におけるイヌワシの利用状況を明らかにし、希少種保全のための森林管理手法への貢献を目指す。さらに、県全域における生息・繁殖状況の把握や、ビデオによる繁殖行動の定量的解析についても継続し、保全に貢献するデータの拡充を図る。</p> <p>平成23~27年度に調査研究を行なった項目は次の通りである：①県内の全つがいの繁殖状況調査、②ビデオを用いた繁殖行動調査、③横方向列状間伐による採餌場所効果の検討(三陸中部森林管理署との共同研究)、④個体識別による移動分散調査、⑤羽根等を利用した遺伝子解析(京都大学野生動物研究センターとの共同研究)。</p>
研究結果	<p>①平成23~27年に計22羽のひなの巣立ちを確認した。各年の繁殖成功率は、最高24.1%、最低7.1%と変動が大きく、平均すると15.6%と、個体数維持のための目標値(約30%)の半分程度であった。つがいによる成績には大きな差がみられた。新たに2つがいの生息を確認し、既知のつがいの新たな巣を13個発見した。一方、4つがいにおいて消失が推定され、3つがいで合併を確認した。一旦つがいの合併が起きた後に、若い個体の転入によって再びつがいが分離・復活する現象も初めて観察された。</p> <p>②ビデオ映像によって複数の巣立ち成功例や失敗例を得ることができ、餌の持ち込み頻度や雛の食餌率の解析により、成長に必要な食餌量や絶食可能日数などが明らかにされた。また、イヌワシでは初めて、魚類を餌として利用する行動も確認した。</p> <p>③一定の区画ごとにイヌワシの出現頻度を分析し、列状間伐のある区画では採餌個体の出現が高い傾向が認められた。ノウサギの生息数も、施業地では経年的な増加傾向が示され、間伐により一定の採餌場所供給効果が期待できることが明らかになった。</p> <p>④映像によって同一個体であると確認できた事例が約15例得られ、成鳥では十数キロから20キロ、若鳥では最長54キロにおよぶ移動の実態が明らかになった。</p> <p>⑤野生個体について、100点以上の遺伝子試料を収集し、うち65試料でDNA抽出と解析に成功した。飼育個体からも24試料でDNAを抽出した。マイクロサテライトの解析では、イヌワシに特化した新たな遺伝子マーカー20種類の開発に成功し、既存のマーカー11種とあわせて詳しい型判定を行なうことができた。遺伝的多様性については、個体数の少なさにも関わらず比較的高い多様性を維持していることが示された。</p>

<p>評価結果</p>	<p>○総合評価 A (2人)・B (4人)・C (0人)・D (0人)・E (0人)</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な新しい知見を得た貴重な研究であったと評価できる。今後、積極的な情報提供など普及面の改善が必要であると考えます。 ・生態観察や個体識別の手法開発等を通じ、イヌワシの特性が明らかになってきた点を評価。今後、保護のための具体的手法につながることを期待する。 ・イヌワシの繁殖のさらなる向上には課題が残るものの、研究としては大きな成果を挙げており、当初の目標を達成できたと評価できる。 ・十分な研究成果が得られているが、県の施策への展開がまだ不十分ではないか。施策に結びつく具体的な提言等が必要であると思われる。 ・概ね本研究の成果は達成され、総合評価はA評価と考える。 ・長い年月にわたるイヌワシ個体群に関する調査研究であるが、マンパワーが限られていることもあり、フィールド調査はボランティアに負うところが大きい。一方、遺伝子解析は地域における種の多様性とその永続性を考えるうえで、重要なツールといえる。
<p>センターの対応方針</p>	<p>I 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>㊦ 研究成果は目標をほぼ達成した</p> <p>III 研究成果は目標をかなり下回った</p> <p>IV 研究成果は目標を大幅に下回った</p> <p>V 研究成果がなかった</p> <p>映像の個体識別により移動の実態が明らかになったほか、遺伝子解析により遺伝的多様性について新たな知見を得るなど、イヌワシの個体群保護に向け、特性の把握を進めることができた。</p> <p>今後、繁殖率の向上の解明のためのさらなるデータ収集と分析のほか、普及啓発にも力を入れ、有効な保護策の提言につなげていきたい。</p>